

Ipragliflozin, a Sodium-Glucose Cotransporter 2 Inhibitor, Ameliorates Nonalcoholic Fatty Liver Disease in Japanese Patients with Type 2 Diabetes Mellitus

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-02-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田島, 加奈子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032713

主論文の要旨

Ipragliflozin, a Sodium-Glucose Cotransporter 2 Inhibitor, Ameliorates
Nonalcoholic Fatty Liver Disease in Japanese Patients with Type 2
Diabetes Mellitus

SGLT2 阻害薬のイプラグリフロジンは日本人 2 型糖尿病の NAFLD を改善する。

東京女子医科大学附属八千代医療センター糖尿病・内分泌代謝内科

(指導：大沼 裕准教授)

田島 加奈子

TWMUJ volume3(2019 年 5 月 10 日公開 doi:10.24488/twmuj.2018008)に掲載

【要 旨】

SGLT2 阻害薬は腎近位尿細管の糖再吸収を阻害する経口血糖降下薬である。

我々は、NAFLD を有する 2 型糖尿病患者 15 名に対し SGLT2 阻害薬のイプラグリフロジン (IPG) を投与し、投与前と投与後 12 週で、身体的数値、食事負荷試験を含む血液・尿検査、ファイブロスキャンで測定した肝脂肪量 (CAP) と肝硬度 (E) の変化を検討した。BMI ($p < 0.0001$)、HbA1c ($p < 0.01$)、空腹時血糖値 ($p < 0.05$)、食後血糖値 ($p < 0.01$) は有意に減少、空腹時 CPRindex ($p < 0.05$)、尿糖 ($p < 0.001$)、ヘマトクリット ($p < 0.01$) は有意に増加、尿酸 ($p < 0.01$)、 γ GTP ($p < 0.05$)、フェリチン ($p < 0.001$)、CAP ($p < 0.05$)、E ($p < 0.05$) は有意に減少した。BMI、AST、ALT、IV 型コラーゲン 7S、APRI、FIB-4 index の変化率は CAP 変化率と関係し多変量解析では ALT 変化率のみが独立した関連因子であった ($p < 0.01$)。IPG は NAFLD を有する 2 型糖尿病患者の脂肪肝や肝線維化を改善させる可能性が示唆された。